

《平成 31 年度 千葉市発達障害等に関する巡回相談事業 (すくすくサポート) 経過報告》

【目的】

市内の保育所(園)及び幼稚園において、発達障害等が疑われる児童を早期に発見のうえ、適切な支援機関につなげるとともに、発達障害児に関する総合的な相談支援を行うことにより、障害児の福祉の向上を図ることを目的に実施する。

【内容】

保育所(園)及び幼稚園を利用している児童の保護者、施設職員からの発達障害に関する相談の他、児童の発達上の課題等の悩みに対応し、家庭及び所属機関での適切な対応方法について助言を行う。より詳しい相談が必要な方は、専門の相談機関の利用を勧める。

また必要に応じて、同一の対象児について再度巡回相談を行うフォローアップを実施している。児童が入園直後などで一度の巡回相談では判断が難しい場合や、保護者の受容態勢が整わず支援機関などへの紹介が時期尚早と思われる場合を対象とし、実施から約 6 ヶ月経過後に、相談員から園を通じて保護者へフォローアップ希望の有無を確認した。また、上記には当てはまらないが、別途園や保護者から再相談の希望があった場合にもフォローアップの対象とした。

事業の普及を図るため、啓発用ポスターを作成し、市内全対象施設に対して、資料とあわせて配布を行った。さらに、今年度より各区保健福祉センターこども家庭課・健康課をはじめとした関係機関に対し案内資料を送付した。

【対象】

市内の保育所(園)、幼稚園及び認定子ども園に通う年少・年中・年長児を対象とする。障害の診断(傾向・疑い含む)の有無は問わない。また、原則として保護者の同意を得るものとする。

【当日の流れ】

巡回相談員の訪問時間は、当該施設の開園時間内とし、調整のうえ、決定する。基本的な流れは以下の通りである。

9:30	観察開始
12:00	観察終了
	巡回相談員休憩・打ち合わせ
13:30	個別相談
16:00	終了予定

【実施結果】

(1)月間実施数(平成 31 年 4 月～令和元年 12 月※延べ数)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
実施数	6	6	11	11	10	11	8	9	11	83

(2)施設種別実施数(平成 31 年 4 月～令和元年 12 月※延べ数)

	実施数	対象 児童数	機関 紹介児童数	他機関 利用中 児童数
保育所	(美浜 5、稲毛 3、中央 4、花見川 7、若葉 4、緑 2)	32	11	13
保育園	(美浜 1、稲毛 5、中央 9、花見川 1、若葉 1、緑 5)	37	9	10
幼稚園	(美浜 4、稲毛 3、中央 0、花見川 11、若葉 4、緑 2)	45	15	13
認定こども園	(美浜 2、稲毛 1、中央 4、花見川 0、若葉 3、緑 2)	23	11	7
合計	(美浜 12、稲毛 12、中央 17、花見川 19、若葉 12、緑 11)	137	46	43

(3)年齢別実施数(平成 31 年 4 月～令和元年 12 月※延べ数)

	年少児	年中児	年長児	合計
対象児童数	30	50	57	137

(4)フォローアップ (平成 31 年 4 月～令和元年 12 月※延べ数)

フォローアップでの利用対象児童数 40 名、相談の結果フォローアップ対象となった児童数は 75 名であった。

【考察】

本年度 4 月から 12 月までの巡回実施数は延べ 83 件、対象児童数は延べ 137 名であった。昨年度の同期間と比べ、巡回実施数は 17 件増(1.3 倍)、対象児童数は 14 名増(1.1 倍)となっている。

対象児の内訳をみると、年少児が 3 名減、年中児が 17 名増、年長児が増減なしであった。また、年少児と比べ、年中、年長児の件数が多くなっている。年中・年長児には前年度のフォローアップ対象児が含まれること、就学が近づくにつれて保護者の心配や相談ニーズが高まっていくことが影響していると考えられる。相談内容には発達の遅れや偏りから生じる容易に解消されない課題が多く含まれていることから、フォローが継続することも多く、年齢を追うごとの相談件数の増加へと繋がっていると考えられる。

対象児童 137 名のうち、31%にあたる 43 名は、療育相談所、民間児童発達支援事業所、保健福祉センター等の支援機関をすでに利用中であり、相談や診断、療育を受けている子どもであっても、保護者の巡回相談へのニーズは高いと言える。

今年度新規に訪問した施設数は 16 件で、訪問施設数の 29.1%を占めており、年々本事業の周知が進んでいると思われる。平成 27 年の事業開始から令和元年 12 月までの巡回相談利用施設数は 105 施設であった。対象となる市内の施設(保育所、保育園、認定こども園、幼稚園)は 289 施設(R1 年 5 月現在)であるため、全体の 36.3%(前年度 3.9%増)の施設が

本事業を利用したことになる。保育所としては、市内全保育所のうち 61.8%が利用している。保育園、幼稚園、認定こども園の利用率はそれぞれ 28.3%、31.7%、36%となっており、年々利用施設数は増加しているものの、3 割前後に留まっているのが現状である。特に保育園は、毎年新たに増設されており事業の周知が課題である。

一方、リピート率は比較的高い傾向にあり、本年度訪問した施設のうち複数回利用のある施設は全体で 79.6%、特に幼稚園では高く 91.7%となっている。また、5 回以上利用している施設は 20.4%あり、継続して巡回相談事業を利用している園(所)もある。施設を対象とした実施後アンケートでは、97.6%が「参考になった」と回答しており、「子どもや保護者への具体的な関わり方を知ることができた」「就学に向けての道筋が分かった」等の意見があった。

○フォローアップの実施について

今年度のフォローアップ実施数は年少、年中、年長児合わせて 40 名、巡回相談を実施した児童全体の 29.2%である。身近な園(所)において相談できる巡回相談事業は、保護者にとって利用しやすく、子どもの園での生活の様子や必要な支援を知りたい、成長や変化を継続的に見てほしいといったニーズも多く、フォローアップ希望が多くなっている現状にある。

40 名の中には、既に支援機関を利用している児童も含まれる。支援機関に繋がった後も、生活上の困難さや診断を受けての戸惑いはすぐには解消されず、相談の場を求めている保護者が多いことが伺われる。本来であれば、家庭や園での具体的な対応は、繋がっている療育機関や相談機関より提供されるべきものであるが、現状として支援機関の持つ保護者支援の機能が、保護者のニーズに十分に答えられていないのではないかとと思われる。

○保護者同意について

巡回相談または啓発活動で訪問した施設の職員から、最も多く寄せられた意見は「施設側が気になっている児童に関して、保護者からの同意が得られないので申し込みができない」というものであった。支援機関への相談につなげていくためには保護者の受容が必須であるため、趣旨を鑑みれば保護者の同意は必要であるが、施設内での対応や保護者への伝え方も含めた相談の要望は高い。保護者の同意が得られない場合の対応については運営事業の『講師派遣(実技中心)』を紹介しており、本年度は 12 月までに 40 件実施している。保護者の同意を得て、改めて本事業につながるケースもあった。